

関連学会印象記

米国 SHOCK 学会

真弓 俊彦*

この度、アメリカ²⁴ Annual Conference on Shock に参加しましたので、御報告致します。この、米国の SHOCK 学会は、毎年1回6月に開催され、ショックに関する基礎医学者から臨床家まで集い、質の高い講演と熱心な討論が行われます。この学会は雑誌 SHOCK の母体となっており、この雑誌はアメリカだけではなく、日本、ヨーロッパ、ブラジル、インドネシアのショック学会のオフィシャルジャーナルでもあります。

学会は2001年6月9日から12日まで、アメリカ、フロリダ州の南西海岸沿いにある Marco Island で開催されました。アメリカをはじめ、世界中から約300人程、日本からは約20人程の参加がありました。医薬品メーカーの展示等は全くなく、純粋に学問と会員の親睦を深める学会です。

ワークショップは2つで「Modeling in shock and trauma research」と「Resuscitative therapies in shock」で、前者は到着が遅れて聞けませんでした。ショックや外傷の実験モデルに関するものであったようです。後者ではショックでの蘇生療法での神経内分泌療法、活性酸素や一酸化窒素の制御、高張食塩水、低体温療法の話がありました。シンポジウムは3つで「Necrosis, Apoptosis, Necroptosis: What have we learned from how cells die and its impact in the shock/septic animal/patient?」では peroxynitrite や apoptosis の病態やその制御、HMG-1 をターゲットとした治療などが述べられ、「Triggering mechanism (s) which drive the innate (pro-inflammatory) response in trauma, shock or sepsis」では感染、Toll like-receptor family、細胞内シグナル伝達系に関することが話題にのぼり、「Mediators of gastrointestinal injury and dysfunction

in shock and sepsis」では Hemoxygenase-1、腸管免疫と臓器不全、好中球と炎症性腸疾患などが報告されました。発表後に演者が全員壇上に上った総合討論はありませんでしたが、各内容は最新の evidence を盛り込んだ、科学的な発表ばかりでした。その他、一般演題は oral と poster がありましたが、oral はいずれも優れた内容で、poster も最新の知見に溢れて見応えがありました。毎回そうですが、基礎医学者を中心にしっかりした実験が行われ、いずれの研究もわれわれが思いつきそうなものは全て網羅されており、この学会のレベルの高さを痛感しました。この学会の優れているところは ph.D である基礎医学者と MD である臨床家が一緒に集い、真剣に Shock に関する知見を深めようとしているところです。基礎医学者の充実がアメリカのリサーチの質の高さの根源となっていると思われますが、さらに、基礎と臨床とが結びついた学会によって、いち早く臨床家は bench to bedside を実行できるようになっているようです。日本でも基礎と臨床の結びついたこのような学会があると非常に有意義であると痛感しています。

ところで、この学会はアメリカの高級リゾートで開催されますが、毎年6月という、観光のオフシーズンに開催されるので、格安で宿泊できます。また、学会参加費には毎朝食と、2回のディナー、2回のパーティーが含まれており、貴重な知見が得られることも考えあわせれば、非常に cost performance に富んだものといえます。

また、毎回、President fun run といって、学会期間中の早朝に約3-5kmのジョギングがあります。陸上部級から、徒歩で参加する会員まで、楽しみながら走ります。昨年は2002年冬季オリンピックが開催される Saltlake City のスキー場で高

*名古屋大学医学部救急部・集中治療部

山病に悩まされながらの参加でしたが、今回は、高度はほぼ0mでしたが、猛暑の中、砂浜を走ることになり、違った意味で大変でした。余談ですが、参加者には、毎回異なったデザインのTシャツがもらえます。

来年はモンタナ州 Big Sky というスキーリゾー

トで開催されます。以前開催されたときには6月でも積雪が認められました。学会会期中に午後から free の日があり、会場から Yellowstone 国立公園まで1時間半位ですので、充分日帰りで観光ができます。来年は是非、多数の先生方のご参加を期待しております。